

事務事業名	いがしらリゾート活性化事業				担当	総合政策部 プロジェクト推進課 いがしらリゾート推進係	
政策名	3	「にぎわいづくり」～まちの活力アップ!～				☒ 総重（総合計画重点事業） ☐ 総新（総合計画新規事業）	
施策名	1	農業の振興				☐ 戦拡（総合戦略拡充事業） ☒ 戦新（総合戦略新規事業）	
関連個別計画	真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略				事業期間	☐ 単年度のみ	
法令根拠						☐ 毎年度実施（開始年度 年度～）	
予算科目	1.一般会計	2.総務費	1.総務管理費	7.企画費		☒ 期間限定複数年度（ 令和元 年度～ 年度）	
予算科目							
予算科目							
事業概要	自然豊かな井頭公園を核として、周辺の井頭温泉、チャットパレス、あく里っ娘、井頭観光いちご園等について一体的な観光ゾーンの整備を図ることを目的に事業を展開する。 ・令和元年度…庁内に井頭公園周辺整備検討委員会及び専門部会立ち上げ（提言書の取りまとめ） ・令和2年度…県及び市と各施設の指定管理者に観光協会を加えた6団体による井頭周辺エリア活性化協議会を組織（エリアが目指す将来像についての構想書を取りまとめ） ・令和3年度…「いがしらリゾート」の名称やロゴマークを決定し、更なるエリアの一体感と周遊性を目指した基本構想をとりまとめた。 ・令和4年度…各施設の周遊を促すために、連絡遊歩道の整備や樹木伐採を実施。また、エリア初の合同イベント「いがしらリゾートアウトドアフェス」を開催し、多くの来場者を集めた。 ・令和5年度…いがしらリゾートアウトドアフェスを会場を井頭公園内へ移し、民間事業者と連携し大規模に開催し、約6,200人の来場者を集めた。また、周辺エリアに案内看板を設置した。 ・令和6年度…市制70周年、公園50周年とタイアップしアウトドアフェスを盛大に開催し、12,000人の来場者を集めた。デジタルマップやエリアマップを整備した。 ハード事業としては、令和2年度に国の実証事業によりチャットパレスにグランピング施設ドームテント2棟整備、R3年度には3棟増設、令和4年度には、屋外トイレの整備やW i - F i ・防犯カメラを設置、令和5年度には、更なる魅力向上を目指し、グランピング施設トレーラーキャンピング4棟を整備した。令和6年度には、井頭温泉及びチャットパレスを「おふるcafe」としてリニューアル整備し、エリアの集客コンテンツとして新たな客層の獲得に成功した。今後は、魅力アップしたコンテンツを効果的に活用し、引き続きエリアの集客を図るとともに、更なる魅力創出のための戦略的構想書を描き、官民連携した新たな運営体制についても検討を進めて行く。						

1. 現状把握の部 （1）事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動）				④活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
6年度実績 井頭温泉及びチャットパレスリニューアル整備 いがしらリゾート活性化協議会の開催 いがしらリゾート活性化推進部会の開催 井頭周辺エリア（南側エリア）活性化基本構想推進 いがしらリゾートアウトドアフェス開催（市制70周年記念事業と連携） いがしらリゾートデジタルマップ作成				名称	単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)
				ア いがしらリゾート活性化協議会の開催	回	5	3	3	3	3
				イ いがしらリゾート活性化協議会推進部会の開催	回	8	6	5	3	1
				ウ いがしらリゾート関連イベントの開催	回	0	1	4	1	1
7年度計画 いがしらリゾート活性化戦略的構想書策定 いがしらリゾート活性化協議会の開催 いがしらリゾート活性化推進部会の開催 いがしらリゾートアウトドア秋フェス開催 いがしらリゾートシャトルバス実証運行実施 井頭温泉駐車場整備に向けた設計書作成				エ						
				オ						
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等				⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
市民・県民・首都圏				名称	単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)
				ア 真岡市民	人	78,592	77,635	77,578	76,992	76,498
				イ 栃木県民	人	1,921,575	1,942,494	1,893,873	1,876,308	1,858,905
				ウ 首都圏（東京、神奈川、千葉、埼玉）	人	36,701,865	36,637,843	36,675,068	36,976,985	37,042,831
				エ						
				オ						
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか）				⑥成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
多様な観光やレクリエーションのニーズに応えるため、いがしらリゾートを全面に打ち出した観光交流拠点としての充実を図り、既存利用者だけでなく、県内外からの若者やファミリーといった新たな客層の獲得とエリア周遊による滞在時間の延伸を目指す。				名称	単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)
				ア 井頭温泉入館者数	人	184,594	206,016	229,455	215,856	235,000
				イ チャットパレス宿泊者数	人	4,329	7,941	10,764	10,873	13,400
				ウ あく里っ娘利用者数	人	146,841	150,765	130,101	126,046	135,000
				エ 井頭観光いちご園入場者数	人	13,661	17,107	18,040	16,118	18,000
				オ 井頭公園利用者数（プール含む）	人	566,639	715,054	748,618	769,739	750,000
(2) 総事業費の推移				単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	11,434	50,710	207,049	0	
			県支出金	千円	0	0	0	0	0	
			地方債	千円	0	0	0	156,400	0	
			その他	千円	0	0	6,100	27,500	9,000	
			一般財源	千円	85,186	18,900	55,018	21,500	3,579	
		事業費計（A）		千円	85,186	30,334	111,828	412,449	12,579	

2. 1 次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 総合計画2020-2024の政策3「にぎわいづくり」や第2期真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標2「真岡市へ新しい人の流れをつくる」に結びついた「井頭公園を核とした観光ゾーンの整備」事業である。
	②公共関与の妥当性 市が事業に関与する必要があるか？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 市の施設を含む観光ゾーンの整備であり、市が行うのが妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か？ ・対象を限定・追加する必要があるか？ ・意図を限定・追加する必要があるか？	☒ 対象・意図を見直す必要はない ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある (評価理由) 対象者は、市民を含む首都圏利用者であり適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるかどうか？ない場合の理由は適切か？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地はない ☒ 向上余地がある (評価理由) 令和6年度の利用者実績値を見ると、前年比で同等及び減少となっている。 井頭温泉及びチャットパレスについては、リニューアル整備による臨時休館等もあり参考程度の数値だが、リニューアルによる利用者拡大に期待ができる。 一方、あく里っ娘や観光いちご園、井頭公園については、施設の老朽化が目立ってきており、集客のためには一定程度のリニューアルが必要であると考える。 いがしらリゾートエリアは本市の観光拠点となるよう、新たな戦略的構想を打ち出し、ハード・ソフト両面でのブラッシュアップとエリア連携により、新たな集客を図っていく必要がある。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ・類似事業はないか、統合や連携はできないか？	☒ 類似事業と統合・連携ができる (類似の事務事業名：) ☐ 類似事業と統合・連携できない (類似の事務事業名：) ☐ 類似事業はない (評価理由) 農政課の井頭周辺農業拠点施設整備事業と連携し事業を推進している。
効率性評価	⑥事業費の削減余地 ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか？ ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか？	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある (評価理由) 国の補助金を活用するなど最小限の費用で事業推進している。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性 (改革案・実行計画) ☐ 廃止 ☒ 見直し (☐ : 目的妥当性 ☒ : 有効性 ☒ : 効率性) ☐ 統合 ☐ 継続 新たな戦略的構想を策定し、エリア各施設のブラッシュアップとエリア連携を強化する	(3) 改革・改善による期待成果 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td>／</td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td>／</td><td>／</td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持			／	低下		／	／
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上			○																		
	維持			／																		
	低下		／	／																		
(2) 課題、課題の克服の方向性 【課題】施設の老朽化・陳腐化 【克服】一定程度のハード整備が整ったが、集客が落ちている施設の更なるハード整備や、エリア連携したソフト事業の充実が必要となる。それらを確実に展開するための戦略的構想書を策定するとともに、エリア全体を運営できる組織作りについても同時に進め、新たな集客を図っていく。																						

4. 事務事業の2次評価結果 (事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足 (説明責任不充分) ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td>／</td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td>／</td><td>／</td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持			／	低下		／	／
					コスト																		
			削減	維持	増加																		
成果	向上			○																			
	維持			／																			
	低下		／	／																			
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり																							
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☐ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☒ 予算増大 ☐ 現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																						